

い し ず え

全損保日勤外勤支部 東日本合同職場会ニュース 08 - 15

2007年11月26日 (発行) 首都分会組対部

「日本平和大会 in 沖縄」

平和を守るとりくみに支部組合員参加

全損保「秋のたたかい」の具体的な運動として、11月23日から25日まで沖縄で開催された「2007年日本平和大会 in 沖縄」に、全損保から14名(内日勤外勤支部2名)が参加しました。

開会集会や全体集会では、内外の代表者から世界の現状や平和のとりくみについての報告、沖縄の「集団自決」を経験された方の話も聞くことが出来ました。太平洋戦争の戦場となった沖縄では、多くの住民が犠牲となり、家族を自ら殺めるといふ悲惨極まりない「集団自決」が行われたのです。戦争の事実を体験者から直接聞くことは、平和を学ぶ上で何よりの教材になります。

二日目は、「戦跡めぐりコース」と「基地調査コース」に別れ、沖縄で何が起きたか、現在何が起きているか、これからどうしたら良いかを見聞きして学びました。「集団自決」の場となったガマ(洞窟)に入り、どんなに怖く悲しかったか、「平和の礎」では沖縄戦で亡くなった一人ひとりの礎(いしずえ)を想いました。また資料館に掲示された「戦争保険申込書」に、戦争と損保産業の関わりを考えさせられました。「嘉手納基地」や「普天間基地」そして、04年8月米軍ヘリ墜落現場を実際に観察して、戦争が決して過去のこと海外のことではなく、現在沖縄の街中にそれが存在していることを学びました。

24日夜に開催された、「損保平和交流集会」には、沖縄で働く全損保組合員や友好労組の大同火災労組の方々も参加頂き、平和や戦争について大いに語り、また交流を深めることも出来ました。

損保産業は平和でなくては成り立ちません。戦争の真実を学び、平和の為に何が出来るか、するべきか、組合員一人ひとりが真剣に考えなくてはならない情勢に今日本はなっています。全損保が掲げる、「憲法と平和・民主主義を守る」ことを日勤外勤支部首都分会としても取り組みます。組合員もそれに関わる集会、勉強会等に積極的に参加願います。

以上